



松木島八幡社

せんぐう かぜ
遷宮の風だより 第9報

発行元

松木島八幡社第19回式年遷宮委員会

令和5年12月1日

ごせんぐうにってい

御遷宮日程 令和6年

3月23日(土) きやりぎょうれつ じょうとうさい ほうしゅくもちなげ 木遣行列・上棟祭・奉祝餅投げ

24日(日) ほうしゅくぎょうれつ へいせん きょうしん ぎ ち ごぎょうれつ 奉祝行列・幣饌供進の儀・稚児行列

時代は「令和」となり最初の御遷宮です。皆さんで盛り上げていきましょう。
“奉祝餅投げ”は豪華賞品を取り揃えて皆さんの参加をお待ちしています。

1年が過ぎるのは早いものですね、今年も残すところひと月となりました。年が明ければいよいよ御遷宮を迎えることとなります。今回の遷宮だよりは、過去の遷宮で寄贈奉納され、100年を迎える現在でも松木島八幡社になくてはならない寄贈品を紹介します。

大正13年の御遷宮で寄贈奉納された物品

1 鳥居



鳥居の種類は「神明鳥居」と「明神鳥居」に大別されます。松木島八幡社の鳥居は、銅造りで形は明神鳥居ですが、足が複数の脚で支えられることから四脚鳥居の変形とされています。

この鳥居は、昭和34年の伊勢湾台風で被害を受け、昭和59年の遷宮で大修理されました。

寄贈者は、東京の深見治三朗さんです。

2 石燈籠 一対

石燈籠は、神殿手前の参道の両脇に設置され、夜でも参拝者を安全に導く明かりが灯されていました。最初は銅造りでしたが太平洋戦争時に金属供出されたため、昭和24年に石造りとなりました。寄贈者は中川榮一さんです。



3 狛犬 一対

石造りの狛犬です。狛犬は邪気を払うために配置されるものです。姿形は異なりますが、まるで仏閣の仁王門に配置される仁王様のような感じに見えませんか。

寄贈者は、神殿に向かって右側が尾崎久次郎さん、尾崎仁左衛門さん、左側が中川善右衛門さんです。



今回のすかし 鳥居と新年を迎える門松です

4 常夜燈籠 一對（鳥居前）

鳥居前に置かれた常夜燈籠は、石造りで参道へと導く街灯としてその役割を果たしています。

寄贈者は中川勘三郎さんです。

過去の遷宮で松木島八幡社に寄贈された物品は、ここで紹介した物品以外にも数多くありますが、寄贈者皆さん全員をご紹介できずに申し訳ありません。寄贈者始め関係者の皆様にはこの場でお礼を申し上げます。

※参考資料：松木島四百年史



浦安の舞

… 第8報では“奉納神楽”を紹介しましたが、今回は“浦安”です。

浦安の舞は、3種の神器である「剣」「鏡」「玉（鈴）」を模した鉾鈴を振って舞う“鈴舞”と、神代の手ぶりを偲ぶ“扇舞”を4人一組として、伶人が奏でる音楽に合わせて、それぞれが異なる動きで舞います。

神楽は神楽殿で舞いますが、浦安は御神前で五穀豊穡を願い舞います。松木島八幡社では戦後になって行われるようになり、現在も子ども会の女子によって引き継がれています。



鉾鈴による“鈴舞”

保存会の紹介 その2 ちりから囃子保存会



ちりから囃子は、1803年(享和3年)ころの発祥と伝えられています。大正末期から昭和初期にかけて参拝客には大変人気があったそうです。しかし、昭和の中ごろ以降は人手不足となり保存会も空白の時期となったことがありました。このような中、平成2年には松木島町内会の推挙と先人方の指導で復活することとなり、今では27人の会員が雷祭りや秋の例祭で太鼓や三味線、笛などを奏で奉納演奏を行っています。

来年の御遷宮では「宮入り」から「絹」「晋門」までの11曲を奉納するため、日夜練習に励んでいます。今後も伝統芸能を絶やさぬように継承していきたいと保存会一同頑張りますので、皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

初詣はまず地元松木島八幡社へ！

皆さんが年明け最初に行うのは「初詣」でしょうか。松木島八幡社では毎年、厄年の方々による振舞酒や菓子の配布を行います。また宮総代の4人も門松など新年を迎える準備を整え皆さんのお参りをお待ちしています。神様のご加護を受け、すがすがしい新年の始まりとしましょう。



2023年 年明け早々初詣の列